

学校経営推進費 評価報告書(2年目)

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	英語教育の充実
評価指標	・GTEC for Students ・英語検定 ・TOEFL iBTコンプリートプラクティステスト ・センター試験平均点 ・授業アンケート
計画名	アクティブ・ラーニング推進のための『フェニックス・プロジェクト』(四技能統合型授業の完成に向けて)

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	2 社会を生き抜く人間力を育成する (2) 発信力、傾聴力を備えたコミュニケーション力を身につけさせる 3 疑問を持ち、その解決に向けて考え抜く力を育てる (3) 十分な知識を基盤として、課題を探究する姿勢を育てる
事業目標	1 ICT機器を活用し、『使える英語プロジェクト』で進めてきた『四技能統合型授業』を完成させる。 2 従来の一方向的な授業から完全脱却し、音声・画像、グループワーク等を活用した立体的な授業を展開し、生徒が主体的に学習する機会を提供する。 3 オーサリングクラウド型学習システムを導入し教材を作成することで、個々に応じた学習内容を提供する。 4 教室内と教室外でのICT活用を連携させ、自学自習の姿勢を育成し、反転学習へのステップとする。 5 動的なリスニング演習を通して、センター試験リスニング問題を攻略する力をつける。 6 実践の成果を広く発信し、高校英語教育におけるパイロット的役割を果たす。
整備した 設備・物品	Voice Script Synchronize(VSS) オーサリングソフトライセンス 教師用 生徒用 教室吊り下げプロジェクター 16台 Wifi Station 16台
取組みの 主担・実施者	主担：アクティブラーニング推進フェニックスプロジェクトチーム VSS教材開発チーム 実施者：第2・3学年英語担当
本年度の 取組内容	「コミュニケーション英語Ⅰ」 ①ペアでの英問英答をゴールとしたラウンド制方式 ②6回のジグソー法 ③多読指導とスピーキング指導 ④Web上オーディオ付きで無料の英語の絵本の利用 ⑤ミニパラメンタリーディベート(テレビ大阪取材) 「英語表現Ⅰ」 ⑥生徒同士のやりとりを重視した協働学習 ⑦緩やかな反転学習の試行 ⑧年間5回のミニスピーチ 「英語表現Ⅱ」 ⑨スピーチコンテストでのICT(教室プロジェクター・iPad)の利用 その他 ⑩一年次の複数授業を外部公開 ⑪活動の実践報告をホームページに掲載 ⑫校外から授業見学受け入れ
成果の検証方法 と評価指標	①GTEC for Students 2年生 320名 Grade 4 以上を40% ②センター英語得点平均 全国平均 +10点 ③TOEFL iBT プラクティステスト3年生国際系志望者30名 平均40点 授業アンケート ④授業への集中：90% ⑤生徒の自宅学習時間：前年度を上回る
自己評価	※(記号説明) 大きく上回った(◎)、上回った(○)、達成できず(△)、実施できず(×) ①GTEC for Students 1年生 309名 Grade 4 以上58.9% Grade 5 7名(2.3%), Grade 4 175名(56.6%), Grade 3 114名(36.9%), Grade 2 13名(4.4%) 昨年度 Grade 5 15名(3.2%), Grade 4 162名(51.6%), Grade 3 125名(40%), Grade 2 14名(4.2%) 316名 (○) ②センター英語得点平均(193名受験) 筆記 +8.61点 リスニング -1.01 合計 +7.6 (△) ③英語検定 過去問でのレベル 推定数(取得者) 2級 4(3) 準2級 26(2) 3級(4) 実用英語講座受講生34名 から 2級レベル4名のうち、3名が合格、準2レベル26名のうち2名が合格、3級レベルが4名 TOEFL iBT は、校内PCが不安定で、実施を途中で断念したため、英検過去問題で代用した。(△) ④授業への集中93% (○) ⑤生徒の自宅学習時間：前年度と同じ (△) 一年次生徒に関する追加成果指標 1 多読指導 平均 29,000 語読了 2 スピーキング指導 18.4 wpm の増加 平均 9月 30.2 wpm 1月 48.6 wpm 3 意識調査 5段階(5強い 1弱い)のスケール 4月→2月 意見表明 2.1→3.0 グループ活動 3.6→4.0 話す意欲3.1→4.0 文法・語彙 3→3.5 友だちから学ぶ 4.1→4.4 楽しい3.8→3.8 よく学べる3.9→4.2 言い換え 3.5→4.0
次年度に向けて	■完成年度に当たり『アクティブ・ラーニング』をさらに進め、『4技能統合型』授業を多くの科目で無理なく展開する ・高い次元の思考を促進する工夫(ジグソー法、ミニ即興ディベート、K(紙芝居)P(プレゼンテーション)法) ・プロジェクターでの授業支援 ・リスニング教材の開発と配信 ■反転授業の促進 ・家庭学習でのICT活用促進、利用できない生徒への対応、授業での協働学習 ■具体的スケジュール 授業コンテンツの検討と計画(～4月) 授業実践スタート(4月) 公開授業・実践発表と研究協議(11～12月) GTEC for Students(1月) センター試験(1月) 授業アンケート実施・結果分析(2月) 取組み状況に対する評価(2月) 総括(3月)